

対象年度	令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート				
事務事業名	文化芸術振興事業					予算事業名	文化振興事業費
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分
			10	05	07	05	経常経費
総合計画体系	4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文 4-4個性豊かな芸術文化の創造(芸術・文化) ①芸術文化を楽しむ機会の充実 2郷土文化の振興					事業の区分	主要事業
						担当課係等	生涯学習課
							文化係
事業期間	継続 (年度～ 年度)						
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】				【事業開始のきっかけや他市の状況など】			
平成28年に施行された、結城市文化芸術振興条例により、市民が、文化の担い手となって活躍する環境を作り出すことや、また質の高い文化、芸術に触れる機会の提供や、文化芸術活動の高まりを目指す。				結城市文化芸術条例を制定し、市民文化センターや情報センターを本市の文化・芸術活動の拠点として明確に位置づけるとともに、条例に基づき、結城市文化芸術基本計画を策定し、市民参加型事業や市民の文化活動への支援を実施するため。			
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】				【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】			
<ul style="list-style-type: none"> 市文化協会への支援(補助金・活動周知及び啓発)：通年 市文化祭(文化協会と共催)の開催及び市民展等の市民参加型事業の企画開催 文化芸術基本計画の推進：通年 ※(計画策定分は、別シートへ計上)				<ul style="list-style-type: none"> 市民 市文化協会 文化芸術活動を行う団体等 			
				【事業をとりまく環境の変化】			
				社会情勢が急激に変化しつつある中、文化は人の心に豊かさや潤いを与え、活気あふれる地域社会を作り出すうえで重要である。条例により文化の振興に関する基本理念を定め、更なる文化振興を目指す必要がある。			
【令和 2年度 事業内容】			【令和 3年度 事業内容】			【令和 4年度 事業内容】	
<ul style="list-style-type: none"> 市文化協会へ補助金交付 市民展等の開催や市民参加型事業の企画及び実施 			<ul style="list-style-type: none"> 市文化協会へ補助金交付 市民展等の開催や市民参加型事業の企画及び実施 			<ul style="list-style-type: none"> 市文化協会へ補助金交付 市民展等の開催や市民参加型事業の企画及び実施 	

■事業費

		H30年度	R01年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他	0	0			
	一般財源	750	812			
歳入計(千円)		750	812			
歳出内訳	節(番号+名称)	金額(千円)	金額(千円)			
	11 需用費	145	207			
	14 使用料及び賃借料	200	200			
	19 負担金補助及び交付金	405	405			
歳出計(千円)(A)		750	812			
伸び率(%)			8.26			
備考	総合計画125ページ 予算書177ページ					

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指標名	単位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	文化祭	回	目標	2.00	2.00	2.00
	文化団体に対して、文化祭行事の開催を支援し、市民が文化芸術に触れる機会を作る。		実績	2.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	文化協会加盟団体・個人数	団体・人	目標	35.00	37.00	38.00
	市民参加型事業の実施を目指すことで、加盟団体個人会員の増加にも繋がる。		実績	36.00	0.00	0.00
	文化来場者	人	目標	2,400.00	2,500.00	2,500.00
	市民参加型事業を開催するため、文化祭行事を市民に定着させ、基盤を作る。		実績	2,145.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	文化祭等文化イベントを開催することで、市民の文化的生活の向上を目指し、未来の子供たちの文化育成につなげられるため
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	市民団体とともに開催することでともに文化的意識を高められるため
	手段の妥当性	A 妥当である	文化協会は市民の文化向上に寄与する団体であり、重要度が高い。そのとりまとめは全体を統括できる職員が事務局をすることが妥当である。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	文化協会加盟団体は増加傾向にあり、文化祭の運営や加盟団体の対応に人員と時間を要する。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	おおむね幅広く便益を提供している。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	文化祭を各団体ごとではなく合同展として開催し、音楽部門も合同発表会として開催ことで、文化祭来場者数の増加に繋げることができた。文化祭を通じて市民が文化に触れる機会を与え、市民の文化芸術の発展に寄与することができた。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	合同文化祭の開催は定着し、市民が文化に触れる機会を増やすことができた。それにより、文化祭の来場者数増加につながっている。

総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください

ゆうき市文化祭は、市の秋の風物詩として定着されており、市民が直接結城の文化に触れる行事として期待されている。しかし昨今、文化協会会員の高齢化が懸念され、若年層の取り込みが課題である。文化協会や文化祭を広くPRし、文化祭の開催継続に向け、高齢者だけでなく、広い世代で参加する仕組みを作ることが大きな課題である。市の文化行政に大きく貢献している文化協会をさらに発展させ、市民の期待が高まっている文化祭を存続させることは必須である。

対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか

文化協会のPRを行い、加盟団体数を増やすことと、市の文化行政及び市民の文化的生活の向上に貢献することを目指す。

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））

拡充（人・モノ・カネ等の拡充） 改善改革しながら継続 現状のまま継続（改善・改革なし） 統合・新規事業への展開
 縮小 休止 廃止・終了

改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画）

文化協会が開催している文化祭など市民参加型の展示会等の開催を通して、誰もが芸術活動及び鑑賞できる環境整備を推進し、本市の文化振興や、底辺の拡大を図っていく。

2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））

拡充（人・モノ・カネ等の拡充） 改善改革しながら継続 現状のまま継続（改善・改革なし） 統合・新規事業への展開
 縮小 休止 廃止・終了

企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入）

上記評価のとおり。